



# 紙飛行機通信

香川大学 教職大学院 ニュースレター

18



## 専攻長就任の挨拶

柳澤 良明

この4月より、高度教職実践専攻の第3代専攻長を拝命することになりました、学校力開発コースの柳澤良明です。

本専攻は今年度で7年目に入ります。2016～2018年度の3年間は、授業力開発コースの有馬道久先生が初代専攻長をご担当されました。続く2019～2021年度の3年間は、特別支援力開発コース(2019年度までの名称は、特別支援教育コーディネーターコース)の武蔵博文先生が第2代専攻長をご担当されました。偶然ではございますが、これで3つのコースから順に専攻長が選出されたこととなります。人望も厚く、かつ、さまざまな改革を進めて来られたお二人の専攻長に少しでも近づくことができるよう、精進して参る所存です。

折しも、本年度から第4期中期目標・中期計画の6年間が始まります。香川大学全体が新たな取組を始める中で、本専攻におきましても、力のある教職員を輩出すべく、授業改善、カリキュラム改善に全力で取り組んで参ります。院生諸君の声にしっかりと耳を傾けながら改革案を実行に移すとともに、細やかに改善を繰り返して参りたいと考えております。

専攻内外の関係者の皆様、ご協力、ご支援の程、よろしくお願いいたします。

## 教員挨拶

*Self-introduction by the new staff*

学校力開発コース・特命教授  
久保 朗



この度、実務家教員として学校力開発コースを担当させていただくことになりました。私は大学卒業後、香川県で中学校教員として採用され、県内6校の中学校と高松市教育委員会での勤務を終え、この3月に定年退職しました。香川大学とは附属高松中学校での勤務や教育実習生の受入れ等で接点があったので、今の職場に不思議な縁を感じています。本当に良い縁があったと感謝しています。これからは皆さんからもよい縁があったと思われるよう、精一杯努めたいと思っています。

大学を卒業して採用された当時は、教科指導と部活動指導を中心に教員生活を過ごしていましたが、附属高松中学校での勤務と高松市教育委員会での勤務が教員生活の大きな転機となり、求められている教員像について考えさせられました。教職大学院ではそれらの経験も活かし、学校現場の楽しさをしっかりと伝えることを第一として、学校課題の解決につながる研究・実践に少しでもお役に立てるよう努力してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

## 大学院説明会ならびに入試日程のご案内

本年度の大学院説明会は、教育学研究科ホームページにおいて、動画等による紹介とさせていただきます。近日中に公開する予定です。個別の質問等があればフォームを用意しておりますので活用してください。入試の詳細については『学生募集要項』で確認してください。学務係で配布しています。また、ホームページでも案内していますので、ご覧ください。

### 令和5年度 大学院入試日程

- ▶ A日程 2022年8月27日(土) ◀
- ▶ B日程 2022年11月26日(土) ◀
- ▶ C日程 2023年1月21日(土) ◀

## 令和4年度 新入生を迎えて 桜咲く

4月3日、桜の咲くなか、教職大学院の入学式がありました。現職院生10名（香川県派遣8名、岡山県派遣2名）と学部卒院生14名の合わせて24名の新入生を迎え、ますます賑やかな教職大学院になりました。この2年間は、コロナ禍により、授業や行事を十分に実施することができませんでしたが、今年度は感染対策をしながらも、充実した日々を送れることを祈念しています。



## 短期履修学生制度と フォローアップ・ プログラムについて

香川大学教職大学院では、教職経験5年以上で教育委員会等からの推薦があり、厳正な審査により認められた方については、1年間の履修で修了することができる「短期履修学生制度」を設けています。この短期履修学生制度で修了した現職教員の方に、大学院修了後もサポートを継続する1年間の「フォローアップ・プログラム」を実施しています。

昨年度、フォローアップ・プログラムを終えた修了生の声を紹介します。

### 宇多津町立宇多津中学校 教諭 北 玲子

1年目の実践研究は、全教職員による組織的・協働的な営みを通じた学校改善をめざすために、主任の組織行動の在り方について探究することでした。その理論と実践を基にフォローアップ・プログラムでは学年主任の組織行動について分析・考察を行いました。

年度当初、学校の職務と研究の両立が不安でしたが、指導教員の先生の温かいご指導と1年目に大学院で学んだことが、職責である学年団運営の支えになりました。学校に復帰して2年目の今も、教職大学院での多様な学びを活かし、どのような状況でも課題を見つけ、問いを立て、協働的に、実務を通じた組織行動を追究しています。未来を拓く子どもたちのために2年間の学びを還元し、これからも学び続けていく所存です。ご指導いただいた先生方、今まで本当にありがとうございました。

### 高松市立牟礼北小学校 教諭 廣瀬 尚哲

私にとって教職大学院での1年間は、理論やエビデンスに基づいた実践研究の方法や教育活動の意義について考えることができた有意義な時間でした。

置籍校に戻ってからは、大学院での学びを基に、若手教員の体育授業の充実を旨として若年教員研修や校内研究授業に率先して取り組み、置籍校教員の授業力向上に努めました。若手教員のみならず中堅教員やベテラン教員からも体育の授業について相談を受けることが増え体育授業への関心を高めることができたのではないかと感じています。また、香川大学の先生方には、現場に戻ってからもいつも温かく迎え入れアドバイスをしてくださり、大変感謝しています。

4月からは新たな勤務地である高松市立牟礼北小学校に赴任し、体育の研究と共に、来年度の総合的な学習の時間の発表に向けて研修を始めています。今後も「理論と実践の往還」を意識し、学ぶ姿勢を忘れずに活動していきたいと思っています。

### 香川県立香川中部養護学校 教諭 滝澤 健

フォローアップ・プログラムでは、特別支援学校における家庭支援をテーマに、動画教材とチャレンジ日記を活用した実践に取り組みました。

現場の通常業務やコロナ対策をしながらの実践研究は、想像以上に大変なものでした。そのような環境の中、スクールミーティングを実施でき、大学教員から直々にご助言をいただけたことに本当に感謝しております。現場に戻り経験則に偏りがちだった指導支援をもう一度、理論に立ち返り見直す機会となりました。

おかげで、参加した児童全員が、約9か月もの期間、家庭学習を継続することができ、親子関係にも好影響をもたらすことができました。今後も研究課題を追究し、成果を現場に広めていきたいと思っています。